

提 案 説 明（要旨）

令和 8 年

3 月越前市議会定例会

【 市 政 運 營 所 信 】

本日ここに令和8年3月越前市議会定例会が開催されるに当たりまして、就任のあいさつと所信を述べさせていただき、議員各位の御理解を賜りたいと存じます。

このたびの市長選挙におきまして、市民の皆様方の温かい御支援、御支持により、市政を担わせていただくことになりました。身に余る光栄と存じ、心より感謝申し上げますとともに、その重責を強く感じているところでございます。歴代の市長及び市議会議員各位の並々ならぬ御尽力に、改めて、敬意と感謝の意を表すところであります。

私は、昨年12月まで県職員として、様々な地域の課題に真摯に向き合ってきました。そして、越前市民として60年間、大切なこのまちで暮らしてきました。PTA、地区スポーツ協会、スポーツ少年団等、市民の皆様と共に地域で汗を流し、現状や想いを常に感じてきました。私の挑戦は、単なる市政運営ではありません。それは、このまちのかけがえのない宝である市民の皆様一人ひとりの笑顔を守り、未来への希望をつなぐ挑戦です。災害対応の現場で培った確かな経験、交通まちづくりやインフラ整備で積み重ねた知恵、そして、スポーツや地域活動で広がった、人と人を結ぶ温かな絆。これら全てを、市民の皆様の幸せのために生かしてまいります。市民の皆様と共に挑み、共に歩み、未来を拓いていくため、これからの市政運営について、次の5つを基本理念として進めてまいります。

まず、1つ目として、「明るいふるさとづくり」について申し上げます。

千年の歴史と文化が息づくこのふるさとを、次の世代へ誇りを持って引き継ぐことが、我々の使命です。そのためには、まず、命と暮らしを守ることが全ての土台です。近年の激甚化、頻発化する豪雨や地震への備えを確かなものにし、災害に強い安全安心のまちづくりを進めてまいります。

能登半島地震等のこれまでの教訓を確実に生かし、広域避難場所に、携帯トイレや防災資機材の分散配置の拡充を進めます。また、トイレトラックの導入や、断水対策を今後の備蓄計画に盛り込むことなどを検討します。

また、夏の暑さが増す近年、子どもたちが授業や部活動を行う学校体育館の空調整備は、災害時の避難生活を支える上でも、重要です。中学校の体育館から

整備を進め、小学校の体育館についても、中学校が完了次第、順次実施していきたいと考えています。

水害対策については、大きな要となる吉野瀬川ダム事業が、今年の出水期までの供用開始に向け、今月6日から、ダムに水を貯めて安全性を確認するための試験を開始しました。吉野瀬川流域の治水対策は、私自身も県職員時代から力を注いできた重要な事業であり、市民の皆様が長年待ち望んできたダムが、いよいよ完成の段階を迎えつつあります。また、市内河川の流下能力を確保するため、堆積土砂の撤去や雑木の伐採などを計画的に実施していきます。

加えて、市民生活を支える社会インフラの強靱化も着実に推進します。特に、老朽化が進む上下水道については、生活の基盤を守るという使命のもと、管路の修繕・更新を計画的に進めるとともに、全国で頻発する地震への備えとして耐震化を進めてまいります。

まちの安全・安心と生活環境を守る上で、空家対策も重要な柱です。空家の利活用や危険空家等の除却を進め、空家の放置による地域の不安を取り除き、住みやすさと暮らしの質を確保していきます。

さらに、深刻化する鳥獣被害についても、地域との連携、侵入防止柵の点検指導や生息環境管理など、総合的な対策を進めることで、農業被害の削減と市民生活の安全確保に取り組んでまいります。特に、クマの出没については、緊急銃猟体制の整備やパトロールの強化、備品整備を進め、迅速に対応します。

脱炭素に向けては、再エネ・省エネ設備の導入支援、学校施設への太陽光発電設備設置、若年層にも広がる生ごみ処理器の需要への対応を図ります。森林環境の面では、県産材の利用促進や意向調査を進め、地域資源が循環する仕組みをつくとともに、和ハーブの利活用など、多面的な価値を引き出し、未来へ誇れる森林を守り育てます。市民・事業者・行政が一体となり、市全体で脱炭素の歩みを加速させ、自然と共生する社会を未来につないでまいります。

命と暮らしを守る確かな基盤の上にこそ、文化と伝統の技は息づき、日々の暮らしの中で磨かれ続けます。本市が、先人から受け継いできた文化と、それを支える産業を、これからも守り抜いてまいります。

今、本市の魅力を世界へ発信するかつてない追い風が吹いています。クラブ

ト&フォークアート分野でのユネスコ創造都市ネットワーク加盟が決定し、さらに、「越前鳥の子紙」が「和紙：日本の手漉和紙技術」の1つとして、ユネスコ無形文化遺産に追加登録されました。長い年月をかけて守り継がれてきた越前の技と心が、世界から大きな注目を集めています。加えて、本年は、日本の「書道」の無形文化遺産登録が見込まれており、市内書道関係者とともに「書のまちづくり」も進めてまいります。これらユネスコに関する動きは、本市がこれまで育んできた文化や伝統工芸などのものづくりを、世界に向けて発信する大きな契機であり、本市の魅力を十分にPRしていきます。

あわせて、国の重要文化財である大瀧神社や市内の指定文化財等の保存修理を支援するなど、市民が歴史に触れ、愛着や誇りが持てる機会を創出、共有することで「地域の宝」を後世に継承し、地域の活性化やまちづくりにもつなげていきます。また、市民の文化活動の発表や鑑賞の場として活用されている拠点施設の設備更新により、利用環境を整え、文化県都の推進を図ります。

さらに、越前おろしそばやたけふ駅前中華そばをはじめとする食文化や神社仏閣などの文化資源を活用した観光メニューの充実や、まちなかの出店者や仁愛大学の学生による新たな活動を通じて、市街地の活性化とまちなかのにぎわい創出を進めます。

人が集い、笑顔が広がるまちは、命と暮らしを守ることと同じ道の上にあります。歴史と文化が輝き、災害に強く、安全で安心して暮らせるまちづくりを、着実に進めてまいります。

2つ目として、「前向きに夢と誇りを持てる産業と担い手づくり」について申し上げます。

北陸新幹線越前たけふ駅開業を契機に、私たちのまちは大きく動き始めています。駅を中心に、多様な産業が芽吹き、人と文化と技術が行き交う新たな交流圏が形成されつつあります。

具体的な状況については、今月5日に、株式会社福井村田製作所の研究開発センター竣工式が行われ、3月30日に開業を迎えます。将来的には約800人の雇用が見込まれ、駅前には株式会社共立メンテナンスによるホテル進出意向が示されるなど、新しい活力が次々と生まれています。多様な産業の集積により、

若い世代に「地元で働きたい」、「いつか戻ってきたい」と思っただけの選択肢を広げ、地域の未来を支えていきます。

越前たけふ未来創造基地（仮称）については、民間事業者からいただいた提案を丁寧に整理し、官と民の役割分担、費用やリスクの適切な配分、運営採算性、誘客効果、地域への波及、そして持続可能性という視点を確かにしながら、最適な枠組みづくりを慎重に進めていきます。

越前たけふ駅パーク&ライド駐車場については、目的外駐車や長期駐車を抑えるために、有料化の範囲や使用料、割引制度の検討を進めており、今議会でのご議論も踏まえ、さらに整備費用や管理運営について検討を深め、新年度内にも有料化を実施したいと考えています。実施に当たっては、新幹線や高速バスの利用者をしっかり確保しながら、使いやすく、安心して駐車できる環境を整えてまいります。

また、来月14日には、株式会社ハピラインふくいとして初めての新駅となる「しきぶ駅」が開業し、本市が整備した駅前広場も供用開始となります。市民の皆様の日常の足としてご利用いただけるよう、利用促進を進めていきたいと考えています。

公共交通の最適化については、地域公共交通計画に基づき、市民バスの郊外ルートを予約のりあいタクシーへと移行し、まちなかを走るルートの再編を進めます。予約のりあいタクシーの第3次実証実験の検証を踏まえ、令和9年度の本格運行に向けて準備を加速させるとともに、市民の皆様に親しみと愛着を持ってご利用いただけるよう愛称募集を行います。

観光分野では、観光振興プランに基づき、トップ層向けの取組を強化し、本市ならではの価値を体感できる高付加価値の体験を創出することで、観光消費額の拡大につなげます。

和紙バレー創造事業では、サインや歩道、モニュメントを一体的に整備し、目的地へ向かいやすい導線の整備、エリア全体の統一デザインの検討、まち歩きを推進し、住民・事業者・宿泊施設とともに進め、滞在価値の向上を図ります。

また、観光二次交通については、県外旅行者向け観光タクシーの実証を通じて、持続可能で利便性の高い仕組みを検討するとともに、旅行者のニーズを把握

し、満足度向上や滞在時間の延長、消費拡大を目指してまいります。

産業の担い手づくりについても、事業承継や創業支援、さらには就農・営農支援を通じて、挑戦する人を力強く後押しします。

地域産業の基盤である事業承継支援では、生活に身近な業種を対象とした実態調査を継続し、個別訪問を通じて県の事業承継・引継ぎ支援センターへつなぐなど、きめ細やかな支援を行います。創業支援では、利子補給制度の対象を若者世代にまで拡大し、補給期間も延長することで、多様な世代の挑戦を後押しし、新しい産業の芽がまちに息づく環境を整えていきます。

農業分野では、担い手の高齢化や労働力不足に対応するため、地域計画に基づく農地の集約・集積の実現に向け、県やJAと連携しながら、後継者の確保を進めていきます。さらに、有機農業を推進するため、有機農業実践者への支援、新たに完成する栽培技術マニュアルを生かして、新規就農者の育成を強力に進めてまいります。また、農業者や就農希望者が、有機農業を含む特別栽培農産物の実践的栽培技術や農業経営について、体系的に学ぶことができる「ふくいオーガニック・グリーンアカデミー」が、県において、夏頃に開講する予定です。このアカデミーの本市での実施を県に働きかけるとともに、これまで蓄積してきた有機農業に係る知見やノウハウを生かすことで、本市の農業振興につなげてまいります。

新幹線によって拓かれた新しい時代を、さらに前へ進め、誇りと活力あふれる越前市の未来を、次世代にしっかりと受け継いでまいります。

3つ目として、「元気で幸せ溢れる100年人生実現」について申し上げます。

越前市に生きる全ての人が、年齢を重ねても、生涯にわたり自分らしく、元気で幸せがあふれる「人生100年時代」を安心して歩めるまちを実現してまいります。

スポーツの力、文化の力は、人生を豊かにする大きな原動力です。私自身、卓球などの競技に加え、日常の中で自転車にも親しんできました。スポーツを通じて、参加する喜びと、運営に携わる側の責任、その両方を経験してきました。誰もが身近にスポーツや文化に親しめる場を整え、生涯を通じて体を動かし、心

を潤し続けられる環境づくりが、健康長寿の礎であると実感しています。これまでの経験を生かし、平時の利用者の安全確保と、競技や展示環境の質の維持、その両面から、スポーツ・文化の拠点整備を着実に進めてまいります。

同時に、人生100年時代を心身ともに健やかに迎えるためには、現役世代からのフレイル・認知症予防が重要です。スマートフォンなどを活用した認知機能測定による結果の見える化を進め、自身の状態を知るきっかけづくりと、DXを通じた意識啓発、早期支援につなげていきます。

また、介護や障がい福祉を支える人材の確保は、地域の支援体制を安定的に維持するために欠かせない取組です。現場の負担軽減や処遇改善について、県と連携し国へ働きかけるとともに、市としても現場や関係者の声に丁寧に耳を傾け、実情に即した必要な支援を検討してまいります。

さらに、障がいのある方が地域で当たり前の日常を安心して過ごせるよう、当事者の声を大切にし、障がいのある方やご家族、福祉サービス事業所の皆様をはじめ、地域で支え合う皆様から幅広くご意見を伺いながら、施策の方向性を共につくってまいります。

本市は、県内でもいち早く多文化共生推進プランを作成し、国籍や文化の違いを越えて、多様な価値観を認め合う多文化共生社会を育くんできました。地域で共に生活していく上で、外国人住民と日本人住民とが互いにコミュニケーションを深め、支え合いながら、幸せを実感できる地域社会の実現を目指してまいります。

若者に対しては、U I Jターンや二地域居住を後押しし、「住みたい」、「帰りたい」と思える魅力あるまちを育てます。

働く場の創出を軸に、農業や伝統産業の担い手への支援を進めることで、多様な人材が本市で活躍できる環境を整え、移住・定住の促進を図ります。市外からの移住・定住を後押しする各種補助制度に加え、ふるさとLINEや移住支援サイトを活用し、越前市の魅力を身近に感じていただける情報発信を行ってまいります。卒業、就職、結婚といった人生の節目を的確に捉え、必要な人に、必要な情報と支援を届けることで、移住・定住希望者から選ばれるまちづくりを進めてまいります。

住宅の支援についても、「越前市で暮らしたい」という思いをしっかりと受け止め、新婚世帯や子育て世帯、移住者を対象とした住宅取得支援を市内全域へと拡充します。さらに、まちなか居住を促進する補助制度の充実や、耐震性住宅への新たな支援を行うことで、安心して暮らし続けられる住環境を整え、移住・定住を一層後押ししてまいります。

人生100年時代に必要なのは、年齢を重ねることを不安ではなく、希望と喜びへと変えるまちづくりです。こどもから高齢者まで、困難を抱える方も含め全ての人々が「自分らしい幸せ」を紡ぎ続けられる越前市の未来を、市民の皆様と共に実現してまいります。

4つ目として、「楽しく教育・子育て」について申し上げます。

こどもたちの笑顔は、まちに活力を与えます。次世代を担う彼らが健やかに育ち、夢に向かって力強く歩んでいけるよう、明るく楽しい子育て・教育環境の充実を図ります。

笑顔を守り、さらに育んでいくため、特性や理解のペースに応じて学びを進められるよう、それぞれのこどもに応じた学びを推進するAI教材などの導入を進め、学校教育のDXにも取り組んでまいります。あわせて、小中一貫教育については、これまでの研究を一層深め、義務教育9年間を通した連続性のある学びや指導体制のあり方を研究してまいります。少子化が進行する中であっても、こどもたちにとって望ましい最適な教育環境とは何かを検討し、地域の実情に応じた教育の充実を目指してまいります。

また、こどもたちの健やかな成長を支える学校給食については、成長期に必要な栄養をしっかりと確保できるよう、引き続き給食の質の維持・向上に努めてまいります。同時に、こどもたちの食に対する理解と意識の向上を図るため、本市の強みである環境に配慮した農業を通じ、地域の豊かな自然に育まれた有機食材の活用を進め、食育を推進します。

さらに、こどもたちの学びを支える基盤として、学校施設等を適切に維持管理し、安心して快適な学習環境の確保にも努めてまいります。長寿命化対策を計画的に進めるとともに、空調設備など老朽化した設備の更新も着実にを行い、こどもたちが安全にのびのびと学び、活動できる空間づくりを進めてまいります。また、

児童センターや児童館の遊戯室等の空調設備の整備・更新についても、計画的に推進し、家や学校に次ぐ第三の居場所として、こどもたちがより快適に遊び、学べる環境を整えてまいります。

加えて、将来にわたってこどもたちがスポーツ、文化活動に継続して親しむことができる機会の確保、充実のため、中学校部活動の地域展開の環境構築を図ってまいります。

子育て環境の整備として、雨や雪の日でも安心して遊べるこどもの遊び場づくりでは、昨年12月25日から本年1月18日にかけて、市民の皆様「どんな遊び場にしたいか」ご意見を募り、多くの声をいただきました。その一つひとつの声に、思いや期待が込められています。皆様の声を丁寧に受け止めながら、遊具などの設計を詰めてまいります。4月頃から施工に着手し、本年夏頃の開設を目指して着実に進めてまいります。

また、吉野地区では、令和9年4月の開園に向け、新しい公立認定こども園の整備が進んでいます。本年はいよいよ建物の工事が本格的に始まります。地域の子育て支援機能を充実させ、こどもの発達段階に応じた教育・保育を提供できる環境を整えてまいります。

加えて、子育て支援センターの相談機能の充実も図り、保育を支える人材の確保にも力を注ぎ、安心して子育てできる環境を整えてまいります。

私自身もPTAや地区スポーツ協会ですんできた絆を教育にも生かし、地域全体でこどもたちを見守り、育てるまちをつくっていきます。未来を担うこどもたちに、最高の笑顔と、確かな希望を贈りたい。誰もが明るく楽しく子育てができるまちにしたい。その想いを胸に、力を尽くしてまいります。

最後に5つ目として、「人の絆で行財政システム改善」について申し上げます。

私は、これまでの行政経験の中で、DXが人の笑顔を守る強い力になることを実感してまいりました。越前市でもこの力を最大限に生かし、市民の皆様にとって、「もっと便利で、もっと優しい市役所」へと進化させていきます。

行財政システム改革・改善は、効率化だけを目的としたものではありません。職員が改善に取り組みやすい環境をつくり、日常業務の無駄を減らし、市民サー

ビスへ力を振り向け、市民の利便性の向上と、職員が働きやすい職場づくりの両方を実現することを目指すものです。現行の行財政システム改革プランの下、オンライン手続の拡充による「行かなくても用事が済む市役所」の実現や、AIの活用、「市役所変えよっさ推進員」による職場風土改革を進めます。広く外部の専門の方々の知見などもいただきながら、持続可能な自治体経営を築き、市民と職員の幸せ実感をより一層高めてまいります。

また、公共施設については、人口減少や社会情勢の変化に伴う利用状況の変化、維持管理コストの増加といった課題に直面しています。令和8年度には公共施設等総合管理計画を改定し、複合化・長寿命化・統廃合を含む総合的な方針のもと、効率的で持続可能な施設管理と財政負担の縮減を進めます。新しい斎場についても「コンパクトで、効率的で、クリーンな施設」をコンセプトに、費用面にも配慮しながら、長く市民に大切にされる施設を目指してまいります。

市政運営に当たっては、まず私自身が先頭に立ち、対話を何よりも大切にしております。少人数での意見交換などを通じて、現場の声や課題を丁寧に共有し、職員一人ひとりと顔の見える関係を築きながら、その力を市政を前へ進める原動力にしていきたいと考えています。大きな改革を一気に進めるのではなく、日々の中で小さな改善を積み重ねていくことこそが、着実な変化と成長を生み出すものと考えています。

地域自治についても、私自身が地域に足を運び、市民の皆様と直接顔を合わせて対話を重ねてまいります。今後さらに自治組織についての議論を深め、今後の自治のあり方を、市民の皆様と一緒に考えていきます。

人がつながり、知恵がつながり、未来へとつながる行財政運営を通じて、越前市の歩みを、市民の皆様と共に進めてまいります。「越前市の未来は、市民と共に創る！」この決意の下、これからも、市民の皆様と政策を前へ進めてまいります。

なお、今議会に上程する令和8年度当初予算案につきましては、市政運営や市民生活への影響を最小限に抑え、切れ目のない行政運営を行うために必要な事業を、いわゆる「骨格的予算」として編成しております。具体的には、中学校体育館への空調設備の整備や、広域避難場所への備蓄資機材の分散配置、吉野地区

新公立認定こども園の整備など、これまで継続して取り組んできた事業や、既存計画に基づく事業、加えて、危険空家等の除却やクマ等に対する緊急銃猟実施体制の整備など、市民の皆様が日々を安心して暮らし続けられるよう、緊急性・必要性の高い事業なども計上しています。

また、2月8日の就任以降、市の抱える様々な課題について各部局と政策的な協議を重ねています。特に、物価高騰対策については、市民の皆様の暮らしに直結する切実な課題であり、何よりも優先して取り組むべきと考えています。現在、小中学校・保育園等の給食食材費の支援や住民税非課税世帯の暮らしを応援するための給付金や地域商品券の発行などについて、検討を進めております。今議会の中で予算を追加上程し、必要な支援をお届けできるよう、速やかに実施していきたいと考えております。そのほか、新規事業をはじめとする政策的の高い施策につきましては、市民の皆様の声に丁寧に耳を傾けながら進めてまいります。十分に議論を尽くした上で、価値ある形となるよう、6月議会以降必要な予算を提案させていただく予定です。

結びに、私の挑戦は、市民の皆様の笑顔を守ることにあります。全力前進で「越前市の当たり前」を守り抜き、明るく、前向きに、元気に、楽しく、人の絆で、「みんな幸せ越前市」を、力強く進めてまいります。

何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。